



私の
なんとか
しなきゃ!

Vol. 63

PROFILE

1965年に松竹映画にてデビュー。71年「仮面ライダー」で一躍ヒーローに。映画「日本沈没」、テレビ「特捜最前線」など主演多数。また、ハリウッド映画で主役を務めるなど、アクション俳優として映画界をけん引してきた。武道家としても知られる一方で、国内はもとより紛争地域や、難民キャンプにて支援活動を精力的に行ってきた。2015年、芸能生活50周年を迎え、2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」では本多忠勝を演じる。



未来を担う子どもたちに、愛を

俳優、武道家 藤岡 弘、
FUJIOKA Hiroshi

私は四国八十八箇所霊場の一つ、大宝寺の近くで生まれ育ちました。子ども心にお遍路さんへのお接待を見て、困った人を助けることを自然に覚えたのです。「仮面ライダー」が人気となってからは、全国のサイン会に招かれてお礼をいただくことがよくあり、それを児童養護施設などに届けていました。ただ、喜んでもらえるのがうれしかったのですが、後々、それがボランティアだと聞きました。

その後、縁あって世界の紛争地や難民キャンプに物資を届けるようになりました。海外で支援活動をする団体の人に、「難民の子どもに会える」と言われ、難民の子どもたちの現実を知りたいという想いに駆られ世界に向かったのです。そこで、悲惨な状況を目の当たりにしました。修羅場を体験し、阿鼻叫喚の世界を見て、知らなければ良かったと思うこともあります。でも、知ってしまった以上、社会に伝える使命があると感じています。

世界の飢餓人口は現在、8億人。一日あたり4万人、東京ドームを満員にするだけの人が亡くなっています。難民キャン

プを訪れ、餓死した方々の遺体、いつ餓死するかも分からない子どもたちを見ていると、自分が生きているのがどれだけ奇跡的なことかを身に染みて感じ、自分のちっぽけさにも気付くことができました。親を失って心を閉ざしていたけれど、一週間ほどの滞在で私を慕うようになってくれた現地の子どもたち。けれど、日本に連れて帰りたいと思っても、かないませんでした。子どもたちのその後は、今も気掛かりです。

未来をつくるのは子どもたちです。子どもたちは愛されて育てば、人に愛を返せるようになります。逆に、傷つけられて育った子どもは恨みを持って育つのです。子どもたちは見るもの全てを学んでしまいます。子どもと向き合う大人が変われば、世界は変えられるのです。できれば民族も国境も超えて、世界が力を合わせて子どもたちを育てていくべきでしょう。たとえば難民の子どもたちを日本で育て、いつか故郷に返してあげることができれば、世界への貢献になります。

一方、若い人たちには、もっと世界に足

を踏み入れ、現実をその目で見てほしいと思います。傍観者をやめ、探検の旅に出るのです。現代は、ネットやメディアなどで何でも知ったつもりになれるほど情報にあふれています。けれども、実際に世界に出て、現実を体で感じれば、感性は自然と研ぎ澄まされます。

行動することで失敗やつらい思いをすることもありますが、それによって痛みを知り、謙虚さと畏敬の念を持てるようになります。日本人の素晴らしさは、礼から始まる謙虚な気持ちと尊敬の念、感謝の心、他人への思いやり、愛の心です。世界のあらゆる場所で、他人の痛み・苦しみに涙を流し、心のふれあいを通して、まさに心情の世界が始まっていく事を信じてやみません。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索